実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和 7 年度
助成団体	公益財団法人全日本柔道連盟
事業細目名	国際競技大会開催事業
事業名	グランドスラム東京 2025
助成金額	96,555,000 円

国際競技大会開催助成（国際競技大会開催事業）を活用し、公益財団法人全日本柔道連盟が行っている「グランドスラム東京 2025」の実施状況について調査を行いました。

本大会は、国際柔道連盟が主催する主要大会の一つであり、全日本柔道連盟主管の大会として日本国内で開催される国際大会です。また、オリンピックや世界選手権の代表選考に通じる重要な位置付けの大会として、国内外から高い注目を集めています。

2008 年までは全日本柔道連盟が「嘉納治五郎杯国際柔道大会」「福岡国際女子柔道選手権大会」として男女別で開催していたそうですが、2009 年から国際柔道連盟がランキング制を導入した際に男女大会を統合し、「グランドスラム」と格付けされ、現在の名称となったとのことです。

■助成の意義

本大会の運営にあたっては、国際柔道連盟が定める競技運営・国際映像制作・大会運営についての規定が度々高水準化されるため、資金繰りについては例年苦慮している部分が大きいとのことです。そのような中、助成金を受けることにより安定した財源の確保が可能となり、国際柔道連盟の規定に則した大会運営ができることに加えて、より多くの外国人選手を受け入れることができたそうです。その結果、国内選手の強化にもつながり、さらに大会を通じて国内外問わず幅広い世代に対し柔道の普及を促すことが出来るようになったとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

チケット販売については、退場時に出場選手のサイン等がもらえる席や著名柔道家の解説を聞くことができる席、団体で利用可能なボックス席等、様々な席種を用意することで、それぞれのニーズに合った観戦を行うことができるよう工夫がなされていました。

また、大会の周知については、公式ホームページの開設に加えて、インターネット中継、放送局、新聞各社と連携した広報活動を行ったほか、各種ＳＮＳを活用した継続的な情報発信を実施したようです。さらに、国際柔道連盟とも連携し、大会プロモーションや日本語解説付インターネット配信を行うなど、大会の認知度向上と集客に努めたそうです。

■その他

本大会終了後には、講道館やナショナルトレーニングセンターを活用した国際合宿を開催し、各国の出場選手や関係者との交流を行うことで、更なる競技力強化を図るとともに、柔道の普及

活動についても積極的に取り組んで行くとのことでした。

また、本事業における認知度の向上のみにとどまらないよう、柔道普及の一環として各年代における長期育成指針を策定し各個人のライフサイクルに応じた育成計画を立てることで、勝敗や競技力向上にとどまらず、交流や生涯スポーツとして柔道が日常生活に根付くような取り組みも行っているとのことでした。

■所感

当日は、世界各国のトップ選手による白熱した戦いが繰り広げられており、一瞬の判断が勝敗を分ける独特の緊張感が会場を包みながらも、観客たちの歓声や声援で大きな盛り上がりを見せていました。試合間では各国の選手団や指導者、審判陣がコミュニケーションを取る姿が見られ、競技者だけでなく柔道競技に従事する全ての人にとっても有意義な大会となっていると感じました。また競技の合間には、メダリストと柔道を学ぶ子どもたちとのエキシビションマッチが行われており、子どもたちがメダリストに立ち向かう姿に会場も和やかな雰囲気に包まれていました。

メダルを獲得した選手の中には、日本人選手が多数おり、改めて日本の競技力が非常に高いことが伺えました。

今後も本大会を通じて、国内競技力の更なる向上や、柔道競技の発展に寄与していくことを期待いたします。

（令和 7 年 12 月 7 日往査）

（写真）パーク 24presents グランドスラム東京 2025 の様子



